

通信

第 133 号 2021. 4. 22

公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル 1階A室 〒101-0063 Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3525-4811 Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: http://svcf.jp

転居された方は事務局(svcf-admin@svcf.jp)まで転居先をお知らせください

2021年度の事業計画及び予算

福島原発行動隊は、3月19日(金)、理事会を開き、2021年度の事業計画及び予算について下記のとおり決定しました。

理事長 安藤 博

【2021年度事業計画】

令和3(2021)年度 公益社団法人 福島原発行動隊事業計画書

【基本方針】

平成23(2011)年3月11日発災の東京電力福島 第一原発事故収束のため計画的、継続的、総 合的に事業を展開する。団体発足の原点、「事 故収束に身を挺して当たる」に立脚し、収束行 動に備える訓練や東京電力福島第一原子力発 電所の現況(廃炉事業の進展)把握の活動 (Watcher)を継続していく。また、国会、内閣に 対して、事故収束事業に高齢者を活用する体 制の整備を、本年度も継続して要請する。

令和1(2019)年度に団体の公益事業として正式 に認定された「福島復興支援事業」をより多角的 に推進していく。

原子力学会が「廃炉の絵姿」を100年ないしは 300年と公表した。福島原発行動隊の活動を長期に継続していくには会員拡大が喫緊の課題 である。令和1年度に改訂したリーフレットを活用すること等により、会員拡大に積極的に取り組む。

【事業内容】

- 1. 福島第一原発構内および周辺の環境放射線等モニタリング事業等
- 1) 放射性物質汚染対処特措法における除染特別地域及び汚染状況重点調査地域内の被災自治体と協定を結び、これら区域内にある被災家屋内および家屋周りの線量測定を行う。平成29(2017)年度からの事業を継続して行う。

福島県川内村、楢葉町との覚書を更新し、継続して事業を展開する。

- 2) 学校・病院など公共施設の依頼を受け、その線量測定等および準備活動を行う。
- 3) 大熊町等の帰還困難区域内で環境放射線量の定点測定を帰還希望の住民と連携して行う。また、活動拠点を帰還困難区域近辺に確保し、測定機材の整備・拡充をめざす。
- 2. 福島復興支援事業

平成29年(2017年)以降、避難指示区域が徐々に解除され住民や企業の帰還/復興が本格的に進んで来たのに対応して、当団体の公益事業に認定されている「福島復興事業」を積極的に推進する。事業は居住宅内外の放射線量の測定、同整備、除草、清掃、農作業支援等多岐にわたる。この事業で、汚染家屋等の除染作業等実務を通じて「原子力発電所事故の収束・廃炉」に協力する際の実務対応能力の維持/向上を図る。「収束・廃炉への協力」と「復興支援」を一体として現場作業に臨み、帰還困難区域であっても住民から要望があれば応えていく。

この5年来支援事業を展開してきた福島県川内村の「高田島ヴィンヤード」(元「かわうちぶどう園」)は、県、国からの復興予算を得ていよいよ本年4月にワイナリーが完成して自家醸造が開始される。年間を通して力を注いでいく。

収穫時に合わせて「一般社団法人川内ラボ等」 と協力して、ワイナリー/川内村見学ツアーを行 う。

- 3. 研修事業
- 1) 放射線等基礎教育、放射線等測定技術研修

福島県内及び全国主要都市で、講演会、集会などを開催する。各種団体からの講演依頼に応じて講師を派遣する。

2) 除染等技術研修

被災地地元の教育機関と提携して事故収束作業を行っている現場で研修を行う。

- 3) 放射線事故対応作業チームの育成
- 4) 院内集会を通じた研修

院内集会を一つのテーマで5回程度ずつ連続 して行い、原発事故、事故収束 事業等の 知 見を高める。

- 5)東京電力福島第一原子力発電所の現況 (廃炉事業の進展)把握 (Watcher)に努める。
- 6) 新型コロナウィルス感染予防のために延期を余儀なくされた桜美林大学加藤研究室と共催のシンポジウム等を開催すべく準備を進め、学生への事故収束事業に関する啓蒙活動等に改めて力を入れる。

(予算については行動隊ホームページ

http://svcf.jp/archives/7751



でご覧ください)

三月福島行動報告

会員 山田次郎

2021年3月8日~10日、双葉郡大熊町に、作業と現場調査に行ってきました。

現地での宿泊は現在他市にお住まいの方のご 自宅を拝借しました。 9日は、大熊町帰還困難区域の KJ 氏宅で、大 雨の時に道路からの雨水が流入を防止するため の土嚢積み、および前々回伐採した樹木の整理 を実施しました。





また、帰還された大熊町 ID 氏から農業用水路の現場を見せていただきました。

田畑を除染した時、重機の使用で用水路周囲が崩れて土石が流入していました。





四月福島行動報告〈コロナ下の福島行動〉

理事長 安藤 博

2021 年度最初の福島行動を、4月 14(水曜日)-19(月曜日)の五泊六日で実施しました。行動隊メンバーの多くがコロナに封じ込められているため、参加者は安藤、杉山、山田の三人だけでしたが、川内村、大熊町、富岡町で所定の作業をしっかりこなしてきました。

川内村では、過去三年来手がけてきた〈かわうち ワイン〉のぶどう園(高田島ヴィンヤード)の育成作 業です。

作業に向かった 15 日は、たまたまこのぶどう園で昨年秋収穫されたぶどう(650 トン)で作った初めてのワイン(シャルドネ 561 本)のお披露目会

が、猪狩貢社長(川内村副村長)や遠藤雄幸村長も加わって開かれていました(写真)。

ワイン製造工場も完成していて、ただこの2月の かなり強い地震で工場の屋根や壁が傷んだため 竣工式は5月に延期されています。

「お披露目」のワインは、山梨と新潟のワイナリーで醸造されたものでしたが、今年秋にはいよいよここでワイン製造が始まります。

16、17 日は大熊町、富岡町の帰還困難区域に 入り、被災/避難者がこの区域に残している自宅 を、帰る日のため懸命に守ろうとされている作業 をお手伝いしました。

コロナは、被災地・被災者支援活動の場にも及んでいます。労力、技術力最大の東京電力復興本社(福島県双葉町産業交流センター)が、「コロナ持ち込み」を懸念する福島地元民の気持ちを慮って活動を停止しているのです。

今回私たちは、地元からの要請を受けてコロナの PCR 検査で陰性を確認して来ました。行動隊メンバーの多くがワクチン接種を受けられるようになるのを願っています。



3

<第101回院内集会報告>

3月の院内集会は、国会開催中のため、講師に 予定していた公明党国会議員との調整がつかず、内容を変更して下記の通り開催しました。

日時:2021年3月25日(木曜)11:00-13:00 会場:参議院議員会館一階101号室 テーマ:コロナ下の「福島復興支援事業」

3月19日の理事会で決定した2021年度事業計画・予算に沿って「福島復興支援事業」を執行していく上で問題になる新型コロナウイルスの感

染防止、ウイルス持ち込みに対する現地の警戒 を配慮しつつ、行動の実績をあげていくにはど のような手立てが必要かを話し合いました。

「福島復興支援事業」のなかでも、帰還困難区域内の不在住宅保守作業などは、帰還困難区域がコロナ無菌の「安全地帯」であることもあって、被災・避難者との連絡などにも問題がなくスムースに進んでいると、3月上旬に短期間の現地行動を行ったメンバーから報告がありました

5月までの行動計画

<第102回院内集会>

日時:4月28日(水)11~13時

会場:衆議院第二議員会館地下1階第四会議室 (地下鉄国会議事堂前駅徒歩5分、永田町

駅徒歩5分、溜池山王駅徒歩8分)

演題:福島復興策、廃炉事業の進展に関わる各

党の方針・判断を聞く

講師:若松 謙維 参議院議員

(公明党所属。総務委員会理事、予算委員、東日本大震災復興特別委員会理事。

公認会計士、税理士、行政書士。

昭和30年、福島県石川町牛まれ 郡山市

在 住)

<online集会「行動隊の10年 出来たこと、 出来なかったこと、そしてこれこれから」>

4月23日(金)、原発事故から10年=行動隊の10 年を迎えた今、標記の集会を三密を避け

Online(Zoom)で開催します

<コーディネーター> 杉山隆保

<問題提起>(11:30─12:15)

- ・「10年年表」 安藤博
- ・「出来たこと、出来なかったこと」 都野知幸
- ・「今後への備え」 麻生良二
- ・「福島第一原発はいま」 中島賢一郎

<討論>(12:15-13:00)

※ ZOOM集会に参加を希望し、招待URLが届いていない方は下記にお問い合わせください。

公益社団法人 福島原発行動隊 svcf-admin@svcf.jp

<第103回院内集会>

日時:5月20日(木)11~13時(予定)

会場:参議院議員会館(予定)

演題:福島復興策、廃炉事業の進展に関わる各

党の方針・判断を聞く

講師:社会民主党国会議員(折衝中)

<SVCF通信134号>

5月19日(水)発行予定

<連絡会議>

以下の各金曜日10:30から。

4月23日、30日、5月7日、14日、21日、28日

